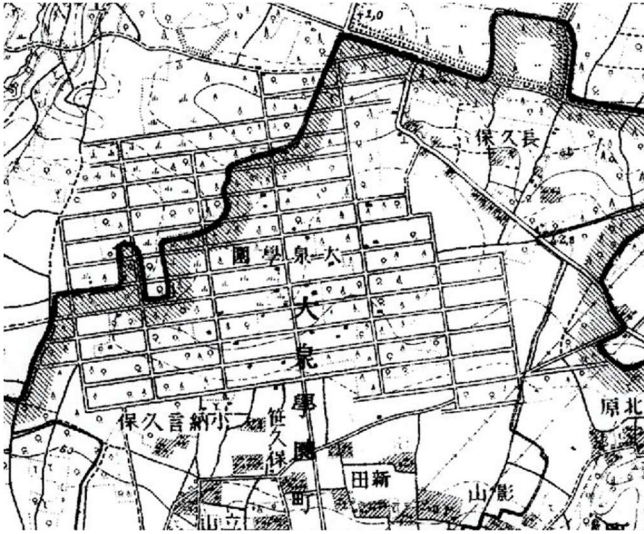


大泉学園町 6 丁目の成立の概略と現況



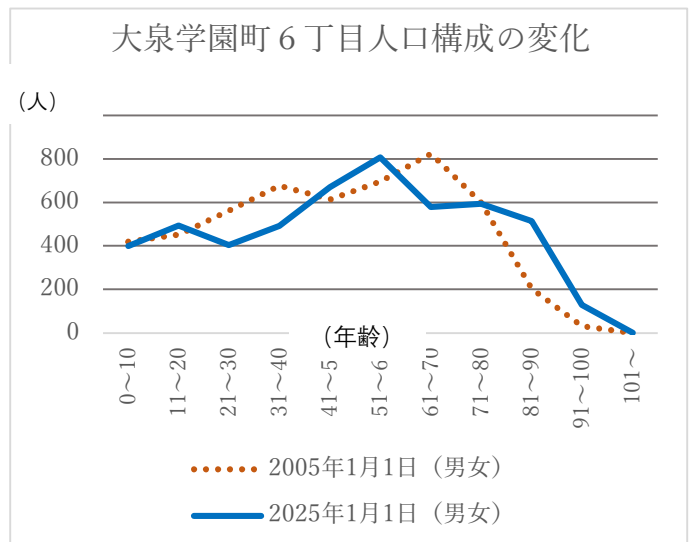
練馬区史に拠る昭和 7 年国土地理院地図は、昭和 56 年調べで面積 2.983 平方キロメートル、人口は約 25,052 人とあるが、令和 7 年 8 月時点では 33,800 人が住民登録しており、農地からの転換に拠る宅地化が原因と思われる。しかし大正 13 年に堤康次郎の箱根土地会社が学園都市として、現在見られるバス通りを中心にして、東西南北に整然とした 1.73 平方キロメートルの街区を造成し始めた頃は、30 戸ばかりの寂しい風景が広がっていたとされる。しかし驚くことに戦前の昭和 7 年には早くも上図のような区画が既に形成されていた。現在の 6 丁目と 5 丁目の丁境を東西に走る通称「五味通り」が既に出来ているのが見て取れる。つまり、現在の学園町 6 丁目は遅くとも昭和 7 年には基本的な区画が完成しており、道路も現在の如く碁盤状に形成されていたが、未舗装で戦後の昭和 22 年に

至っても学園町全体の人口はわずか 1,638 人であった。昭和 30 年には都市型の精神医療に特化した治療医院として 6 丁目に大泉病院が開設された。そして昭和 40 年には学園町全体で人口 12,000 人に達している。昭和 53 年 4 月には大泉学園緑小学校が開校している。

そして平成 18 年（2005）の練馬区町別人口調査統計によると、学園町 6 丁目の人口は男女合わせて 5,080 人であった。そして現在も人口に大きな変化はないが、最新の令和 7 年（2025）調査と人口構成を比較してみる。

下グラフのように後期高齢者人口の割合が、6 丁目においても明らかに増加している。当地の 65 歳以上の高齢者人口の割合は現在約 30%で、練馬区住民基本台帳による区全体の平均値 21.9%はもとより、全国平均の 25.5%よりも高い。

2025 年 8 月 7 日 檜原悟



「練馬区世帯と人口 町丁目別」に拠る